

避難先の会津若松市で地域コミュニティの再興

～『おおくまステーション おみせ屋さん』～

【 福島県会津若松市一箕町松長地区 】

名 称 : 大熊町松長近隣公園仮設住宅 コミュニティ施設 おおくまステーション
おみせ屋さん

所 在 地 : 福島県会津若松市一箕町松長1丁目17番地11

種 別 : 仮設店舗

延床面積 : 209㎡

入 居 者 : 小売業等(避難元:大熊町)

区 画 数 : 3区画

建物構造 : 軽量鉄骨造1階建て

事業開始 : 平成23年8月31日

完 成 : 平成23年10月6日

供用開始 : 平成23年10月6日(平成23年10月17日店舗オープン)

福島県大熊町は福島第一原子力発電所の事故の影響により、全町域が警戒区域に指定されたことから、全町民が他市町村へ避難することを余儀なくされ、大熊町から会津若松市へも多数の住民が避難し、仮設住宅で生活をしている。

仮設住宅の近傍には商店が少なく、また、冬場は雪も多く車を持たない高齢者も多いことから、仮設住宅の利便性を高めるため、商工会の会員が中心となり、中小機構に仮設施設整備を要望した。

平成23年10月6日に建物工事が完成し、10月17日に「おおくまステーション おみせ屋さん」としてオープンした。仮設住宅住民の利便性の向上に加え、隣接する「つながっぺセンター」とも相まって、住民の憩いの場としても活用されている。

本仮設施設は、小売業等の商工会員13事業者で構成する「松長近隣公園共同店舗運営協議会」が運営主体となって営業を行っている。

